

令和 7 年度

事業所名： ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100774		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)		
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮6丁目6-10		
自己評価作成日	令和7年12月16日	評価結果市町村受理日	令和8年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月20日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ボランティアさんによる歌・踊りの披露など月光ユニットと一緒にいった。今年は5月に岩手県立大学のさんさ踊り実行委員会様に声を掛けて企画を行い、デイサービスやそよ風、ご利用者のご家族などにも声がけし盛大にイベントを行った。10月はボランティア様を招いて民謡・三味線の公演を企画し、ご家族にもご参加いただいた。輝ユニットはご逝去や体調不良の方が立て続けに出てしまい入退きの多い年になった。認知の度合の強い方が割合的に多くなり暗中模索の日々だが、月に一度開く定例ミーティングで様々な意見を出し合いトライアンドエラーでやってきた強みがあるように思う。また、日々の業務中にもアイデアを出し合い実践し、利用者の方々にとって過ごしていただきやすいユニットを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、大型ショッピングモールや郊外型商業施設が集積するエリアに位置し、周辺には病院をはじめとする医療機関、福祉・介護事業所が多く立地し、公園や美術館、記念館にも近接しており、買い物や散歩などの外出に適した良好な住環境にある。事業所では、居室の見守りセンサーや介護記録のタブレット入力など、ハード面・ソフト面の双方でICT活用を積極的に進めており、これにより、職員の業務効率化と利用者の安全確保に寄与している。理念として掲げる「私らしい今を、ともに輝く明日へ」のもと、利用者が自分らしく生活できるよう、できることを共に考えながら支援を行っている。家族との連携にはSNSを活用し、周辺の福祉施設と協働したイベント企画などを通じて、日常的な外出や行事参加の機会を増やす取り組みも行っている。これらにより、利用者が意欲的に日々を過ごせる環境づくりに努めている。近年は利用者の重度化や看取りへの対応が増えていることから、職員体制の再構築や医療機関との連携強化を進めており、本人および家族の意向を尊重しながら、安心して生活できる体制を整えるため、職員が丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き生きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設内に理念の掲示を行っている。新しい職員も入社されているので、理念の共有・周知は今後も課題である。	理念は事業所内に掲示するとともに、ユニット会議等で繰り返し確認し、職員間で共有している。新任職員については、本社研修後に現場のベテラン職員をチューターとして配置し、日々の支援を通して理念の理解と実践を促している。また、理念に掲げる「私らしい今を、ともに輝く明日へ」を具体的な支援に落とし込むため、昨年2月より毎月テーマを設定し、カンファレンスで利用者ができることを考えるなど、全職員が共通認識をもって支援に取り組む仕組みを整えている。この取り組みにより、理念を日常の支援に結びつける意識が職員全体に浸透しつつある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・運営推進会議の実施には民生委員さんも参加してもらっている。 ・5月 岩手県立大学の学生を招いてさんさ踊りを披露していただく。 ・8月 近くにある歴史文化館に行き、施設の方と交流する。 ・10月 民謡ボランティアの方を招き、イベントを実施。民生委員さんを通じてイベントに参加していただけるように働きかけをしている	事業所は町内会に加入し、町内一斉清掃や地域行事への参加、事業所主催行事への近隣住民の招待などを通じて、地域とのつながりの強化に努めている。また、同地区内の福祉・介護事業所との交流、地域交流スペースの常時開放、災害時における施設機能の提供、「オレンジガーデンプロジェクト」への参加など、多様な形で地域との協働を進めている。前回の外部評価を踏まえて設定した目標達成計画のうち、「地域の方々を事業所に招く」取り組みは実施されており、一定の成果が確認できる。一方で、「避難訓練に参加してもらう」取り組みについては、引き続き地域との調整を図りながら継続して取り組む姿勢が示されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	病院から退院を迫られているという方が相談にいられた方、特にサービスが初めてという方には内容をかみ砕いて説明するようにしている。見学会を実施して気軽に立ち寄り相談できるようにしている。又、盛岡市が実施しているオレンジガーデンニングに参加し近隣の薬局にプランターを届けた(今年度はノロウイルス発生により保育園への設置はできなかった)			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている。	運営推進委員会のご指摘の通り誤薬が多く発生 した。服薬時だけでなく、服薬後の袋を回収し点 検することにより服薬の振り返りもできた。	運営推進会議は2ヵ月に1回の頻度で定期的に 開催されており、委員は利用者後見人、家族、民 生委員、市担当課職員、地域包括支援センター 職員で構成されている。会議では、利用者の状 況、各種委員会の実施概要、行事等の活動状 況、事故・ヒヤリハットの発生状況などが報告さ れ、それらに対する意見交換や改善に向けた助 言が行われている。また、会議内容は「確認書」 として委員および家族全員に郵送し、意見を添え て返信してもらう仕組みを設けている。返信内容 は次回会議で共有され、運営への反映を図るな ど、会議を継続的な改善につなげる工夫が見ら れる。なお、前回の外部評価において、町内会か ら会議に参加してもらうことを期待され、民生委 員が町内会の代表も兼ねることとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取り組み を積極的に伝えながら、協力関係を築くよ うに取り組んでいる。	今年は感染性胃腸炎やコロナの発生などに伴 い、市町村担当者との情報共有などを行う場面 が多々あった。運営推進会議には介護保険課事 業所指定係の方にも参加してもらっている	市町村との連携については、担当課職員と日常 的に連絡・相談ができる関係が構築されており、 運営推進会議への参加や介護認定更新時の調 整など、必要な場面で適切な協働が行われてい る。また、地域包括支援センターとも継続的かつ 密接に連携しており、利用者支援に関する相談・ 助言、地域の支援資源に関する情報提供を受け るなど、実務的な連携が機能している。さらに、 「オレンジガーデンプロジェクト」等の取り組みを 通じ、地域包括支援センターと協働して認知症理 解の普及啓発にも取り組んでいる。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行っている。 多動、徘徊する方が数名おり、物を動かしたり運んだり目が見えない場面が増えた。研修内容を活かし身体拘束ではなく声掛けにより事故等を事前に防ぐよう取り組みをした。	多動や徘徊がみられ、目が離せない場面が増えている利用者への対応について、事業所では身体拘束を行わないケアの徹底に向けた取り組みを継続している。身体拘束廃止推進委員会を2か月に1回開催し、利用者の状況に応じた環境調整や見守り方法について職員間で検討している。また、年2回、会社主催のオンライン研修に参加し、身体拘束をしないケアの理念や具体的な支援方法について理解を深めている。日々の支援の中では、スピーチロック等の「気づき」を職員同士で共有し、声かけや関わり方の見直しにつなげている。事業所内には5か所にカメラが設置されており、本社とも連携して映像を確認できる体制が整っている。必要に応じて本社へ相談し、助言を受けながら安全確保と権利擁護の両立を図っている。前回の外部評価で言及された「玄関の解錠方法の検討」については、利用者が外出を希望する様子がみられた際に職員が解錠し、本人の意思を尊重した対応が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関する研修を行っている。 職員同士のコミュニケーションや声掛けにより虐待防止に繋がっていると思う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人の方への定期的な連絡や書面での状況報告を行っている。また、時々面会にも来ていただいている。今年から新たに成年後見制度を利用する方が増え、ご家族や後見人の方との連絡調整を行った。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	安心して居住していただけるよう事前にご家族の不安の解消に努めたり、申し込みの段階から見学に来ていただき施設の雰囲気を知っていただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で集約した意見をユニットリーダーへ伝達をしてユニット内で理解を深めていたり、タブレット端末での記録を通して共有し理解を深めている。	事業所では、利用者や家族の意見を運営に反映するための仕組みづくりに取り組んでいる。運営推進委員会の会議記録を「確認書」として家族全員に郵送し、意見や要望を記入して返信してもらう方法を採用しており、寄せられた内容は次回の委員会で報告・共有されている。また、LINEやショートメールでつながっている家族とは日常的に連絡を取り合うことで、情報共有や要望の確認が迅速に行える体制が整っている。家族から寄せられた意見や気づきはユニット会議等で共有し、必要な対応について職員間で協議している。利用者からの「帰宅したい」といった実現が難しい要望については、家族と代替案を検討し、本人の思いにできる限り寄り添う形で支援方法を調整している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス内で意見の集約を行い、ユニットリーダーより管理者へ報告を行っている。カンファレンスの短い時間だけで話をまとめることが難しそうな課題があれば事前に職員の意見を募ることも行った。また、定期的な面談も実施している。	事業所では、職員の意見を運営に反映するための仕組みを複数設けている。ユニット内では日常的に意見や提案を募り、さらに3か月に1回、管理者との個別面談を実施し、職員の考えや課題を直接聞き取る機会を確保している。職員からは、会議の開催頻度や行事内容に関する意見が多く寄せられており、必要に応じて運営方法の見直しにつなげている。最近では、利用者の重度化に伴う職員体制について要望が出され、これを受けてシフトの組み換えを行うなど、現場の声を踏まえた改善が実施されている。管理者の判断を超える事項については、オンラインで速やかに本部へ報告・相談し、助言を得ながら対応を進めている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフトをその都度見直し、配置が必要なところに工夫できる様にしている。またシフトに研修時間を盛り込み、無理なく研修を受講できるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	e-carelablによる研修を行っている。新しく入職した方が数名おり、机上の研修とOJTによる実践的な利用者様の関りで働きながらトレーニングをする取り組みを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	5月に当施設主催で岩手県立大学学生によるさんさ踊りの見学を行った。その際に近隣のデイサービスやそよ風にも声掛けし、グループ内で高め合えるような環境を作ることができた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	輝ユニットとして5名の利用者様を迎え入れた。認知度合の違う様々なバックグラウンドを持つ方々なのでアプローチの仕方に戸惑いながら接しているが、ご本人の困りごとやご要望に耳を傾けることで安心できる暮らしを確保することに努めることができたと思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記の通り様々なご家族ともお話しする機会が増えた。その中で、いろいろとご要望があるわけだが一つひとつ丁寧に耳を傾けることで、信頼関係構築を築く懸け橋となった。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	申し込み時に見学に来ていただき施設での暮らしをイメージしていただいたり、困っていることやご本人の暮らしに関して丁寧に聞き取りを行っている。満床かつ急ぎである場合は同系列のショートステイをご提案し、その時に最善となるサービスの提供を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	GHは利用者様の生活の場であることをわきまえて、できることは必要以上に介助せず、ご本人の生活様式を尊重した暮らしを提供するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	イベント時にはご家族にお声かけして参加を促している。ご家族が面会しやすい環境を作りをしている。季節のお召し物やご本人に必要な物を電話などでお伝えすることにより面会にいらっしゃる頻度が増えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人の面会希望があれば快く受け入れる体制を整えている。なるべくご本人の馴染みの方と関係が途切れないように支援している。	事業所では、利用者が馴染みの人や場との関係を継続できるよう、柔軟な支援を行っている。知人や家族が訪問した際には、いつでも面会できる体制を整え、利用者が安心して関係性を維持できるよう配慮している。訪問が少ない家族に対しては、利用者の希望を伝えることで訪問の機会を促し、家族とのつながりが途切れないよう働きかけている。また、利用者が行きたい場所がある場合には、家族の協力を得ながら外出を実現しており、通院の帰りに親戚宅へ立ち寄るなど、本人の思いに沿った支援が行われている。さらに、手紙や電話でのやり取りを職員がサポートすることで、家族や知人との継続的な交流が保たれるよう支援している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	各テーブルに花を置くことで、そこから会話が生まれ利用者同士の円滑なコミュニケーションの一助になっている。また、干し柿づくりや誕生祝のイベントをすることにより利用者の一体感を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	体調不良によりご退居された方の経過をご家族やケアマネジャーを通じて教えていただき職員と共有した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の趣味やお好きなことを把握し、それをできる様にお勧めし提供することができた。また、ご本人に合った娯楽を模索するように努めた。	職員は、日常の声掛けやふれあいを通して、利用者の思いや意向の把握に努めている。言葉での意思疎通が難しい利用者については、家族等からの情報に加え、表情・仕草・態度などの変化を丁寧に観察し、思いを汲み取る姿勢が見られる。ホーム内で一律の生活パターンを強いることはなく、利用者が趣味や娯楽を楽しめるよう柔軟に対応している。また、職員が気づいたことは随時タブレットに記録し、利用者の思いや意向に関する情報を職員間で共有する仕組みが整えられ、チームとして一貫した支援につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	月一回のユニットミーティング時に新規の方の生活歴や生活環境を共有し、その方らしい暮らしができるように話し合いをする場を設けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている。	出勤時の申し送りはもちろんSCOPによる記録を 通して、その日一日の暮らしの支援が途切れる ことがないように現状把握に努めた。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している。	訪問や往診医に困りごとを相談することにより課 題解決に努めた。またケアマネジャーとも緊密に コミュニケーションを取る事により、より良い暮ら しを提供できるよう努めることができた。	毎月のユニット会議では、職員が利用者の状況 を共有し、必要な支援の見直しについて意見交 換を行っている。会議で出た意見に加え、事前に 把握している家族の意見・要望、主治医や訪問 看護師からの助言等を踏まえ、介護計画作成担 当者が計画の見直し案を作成している。その後、 ユニット会議で再度協議し、家族の確認を得た上 で計画を決定している。決定した計画内容は全 職員に回覧、共有されている。また、利用者の情 報はタブレットで一元管理されており、バイタルや 生活状況、過去との比較などを容易に確認でき る仕組みが整っている。これらの情報は、介護計 画の策定やモニタリングにも活用されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報 を共有しながら実践や介護計画の見直し に活かしている。	日々の出来事を記録に残し、また引継ぎによる 情報共有で何気ない変化を気付くことができた。 また、その方に合ったアプローチの仕方やケアの 工夫を主にユニットミーティングにより共有した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多 機能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能 化に取り組んでいる。	急な体調不良により受診が必要となった際、ご家 族の都合が付かない場合、職員が代わりに受診 に付き添うなど柔軟な行動をすることができてい た。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	消防訓練の際、消化器の使い方を職員だけでなく利用者様を交えて実践することができた。体が動く方には実際に消化器を使っていただく訓練も行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診の数日前にバイタルや服薬状況をFAXにて送るなど事前の報告をスムーズに行うことで効率の良い往診が行えている。	入居時に利用者および家族の意向を確認し、多くの利用者が事業所の協力医をかかりつけ医としている。協力医による訪問診療と、訪問看護師による訪問看護を組み合わせることで、適切な医療支援や必要な助言を得られる体制が整っている。入居前からのかかりつけ医の継続を希望する利用者については、家族が通院介助を行っているが、受診結果については事業所と家族の間で情報共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度の定期訪問の際に利用者様の情報をお伝えしている他、処置で来て下さる際にも気になることがあるれば状態をお伝えしている。日頃の些細な状態変化もお伝えしやすい関係が構築されていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の経過や様子をケアマネジャーを中心に病院より聞き取り、退院した後の生活に活かす努力を続けている。また、透析で通院される方については連絡ノートという形で意思の疎通を図っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	今年は2名の方がご逝去された。反省点は多々あったが重篤化した利用者様のご家族を受け入れることで、利用者様には安心して過ごしていただけるように環境を整える努力をした。ご逝去後はスタッフミーティングの際にデスカンファレンスを行いケアの振り返りをした。	重度化および看取りに関する指針を整備し、入居時に本人・家族へ説明して意向を確認している。重度化が進んだ際に改めて意向確認を行い、本人が安心して納得のいく最期を迎えられるよう支援している。近年は看取りの件数や期間が増加しているが、医療機関との連携強化や職員シフトの調整などの工夫により、本人・家族からの要望には概ね対応できている。家族が泊まり込みで看取りに関わるケースもあり、その際には家族への配慮も行っている。これらの取り組みを通じて、事業所として看取り支援のノウハウが着実に蓄積されてきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時に対応するフローチャートを作成し共有している。また、ミーティングの折を見て周知するように心掛けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、災害時を想定した避難訓練・通報訓練を実施している。職員の人手が少ない夜間帯を想定した訓練を行い、非常時に備えている。	事業所は、ハザードマップ上で大きな災害リスクが想定されない地域に位置し、火災を主な想定とした避難訓練を年2回実施しており、夜間想定訓練についても昼間に実施している。また、業務継続計画(BCP)の策定、近隣の特別養護老人ホームとのバックアップ体制の構築、3日分の水・食料等の備蓄、太陽光発電による電力確保など、多面的な災害対策を進めている。前回の外部評価で言及された「地域の協力体制の構築」については、引き続き取り組む方針である。	夜間を想定した訓練については、薄暮時に実施することで、実際の暗さに近い状況下での課題を把握できると考えられます。また、前回の評価でも言及された「地域の協力体制の構築」については、引き続き取り組みを進めていくことが望まれます。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	時間帯によってはかなり利用者様が動き回り危ない行動をやめていただくため声を出す場面も見られた。研修を通じて声の掛け方や接遇態度を見直す場を設けている。	利用者の人格を尊重した対応を心がけており、排泄や入浴などの場面ではプライバシーの確保に配慮している。一方で、職員数が少ない時間帯には、安全確保の観点から制止的な声かけが生じる場合もある。このため、ミーティングで対応方法を共有したり、管理者が個別に職員研修を行うなど、言葉づかいや態度によって利用者の尊厳を損なうことのないよう、職員全体で意識の統一と改善に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	季節ごとの飾りやオーナメントなどその方の得意なことを活かした創作活動を行っていた。現在は利用者様の入れ替えが激しく、また多動の方も多いので十分に行えていないのが課題点である。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者のADLの変化などを踏まえ、例えば食事にかかる時間が長くなる、早く寝たいなどの理由から食事提供を早める工夫や、入浴も必ず時間までに終わらせるではなく臨機応変に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った洋服をご用意いただくなどご家族を中心に洋服をそろえていただいている。			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食形態表をキッチンに用意してその人の好みやアレルギーを把握するようにしている。お皿拭きやお盆拭きなどその人のADLに沿って出来る方をお願いしている。	本社から搬送される献立と食材をもとに職員が調理を行い、後片付けなどには利用者が参加する場面もある。事前に利用者の好みや把握し、苦手な食材についても食べやすいよう味付けを工夫しているほか、きざみ食・とろみ食・ソフト食など、利用者の状態や要望に応じた食事形態で提供している。また、季節の行事や誕生会にはお寿司やお花見弁当を用意するほか、ひつまみなどの郷土料理や干し柿、ゼリーなどのおやつ作りを利用者と一緒に行うなど、食事を楽しめる機会づくりにも取り組んでいる。	おかずの多くを冷凍食品に依存しているため、季節感や利用者の嗜好への細やかな対応に不足する部分があります。簡単な手作りのおかずを取り入れることや、利用者の希望を反映した献立の工夫により、食事の楽しみをさらに充実させていくことが望まれます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方の接触状況に合わせてソフト食やミキサー食などを用意提供している。また、食事量を主治医に報告し足りない判断されれば栄養補助飲料などをしよほうしていただきお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	なるべくご自身の力で口腔内の洗浄をしていたくようにしている。必要に応じて職員がお手伝いをし口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	自立した排泄が難しい方には声掛けにより排便をしていただいている。また、就寝時は定時でのパット交換をすることによりお肌の清潔に努めている。	自立してトイレで排泄できる利用者もいる一方で、失禁が多い利用者や自立排泄が難しい利用者には、声かけによる誘導を行っている。排泄に関する情報はタブレットで一元管理しており、誘導のタイミングや方法、便秘の有無などを職員間で共有し、適切な対応につなげている。また、誘導時の声かけや排泄がうまくいかなかった場面では、本人の心情に配慮した対応を心がけている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘されている、または排泄が遠い方は訪看や病院の指示を仰ぎお薬を飲んでいただくことで解消している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴表を組んで週に2度程のペースで入浴をしていただいている。入浴中はお話をするなどお風呂を楽しむ雰囲気を出すように努力している。	週2回、午後の時間帯を基本として入浴を実施している。入浴予定表を作成して運用しているが、利用者の希望に応じて入浴日時を変更することも可能としている。お湯は利用者ごとに張り替え、季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯を提供するなど、入浴を楽しめる工夫を行っている。また、入浴後には保湿や水分補給の時間を確保し、リラックスして過ごせるよう配慮している。入浴介助時には身体状況の確認を行うとともに、衣服の着脱時などにおけるプライバシーの確保にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お食事、口腔ケア、就寝介助と一連の流れで生活パターンを構築している。眠れないといった方は主治医に報告し睡眠導入剤を処方していただいている。また、人によってはご本人の希望により就寝薬を飲んでいただく方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬を飲んで(または飲んでいなくても)の体調の変化などがあれば訪看を通じて主治医に確認し判断を仰いでいる。便秘薬はご本人の便の状態に併せてこちらで調整をしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴に合ったご趣味や楽しみ事(塗り絵やペーパーフラワーづくりなど)を余暇の時間にやっていた。暖かい日には散歩に出させていただくなどの気分転換も図っている。ユニットの現状によりユニットイベントが開けていないのが課題。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	温かい季節には桜を見に近くの公園へ行ったり、紅葉を見に行ったりと外出する機会を設けている。	歩行が可能な利用者については、日常的に職員とともに事業所周辺を散歩している。外出をあまり好まない利用者には、ゴミ出しなどの役割を通して散歩を促すなど、個々の状況に応じた働きかけを行っている。また、季節に応じてお花見や紅葉狩りのドライブ、歴史文化記念館の見学などを企画し、外出の機会を提供している。さらに、個別の希望がある場合には、家族の協力を得て、利用者が望む場所への外出を実現することもある。目標達成計画に掲げた「ゴミ出しや家族の協力による外出」にも取り組めており、日常的な外出支援が継続して行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族を中心にお金の管理をしていただいている。ご所望品があればご家族に伝えるなどして購入していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	「帰りたい」という気持ちから家族に電話をかけてほしいとお願いする方も多い。毎回の対応は難しい部分があるが、ご家族の協力の元対応していただくこともあった。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ツクイ盛岡本宮グループホーム(輝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾りつけやオーナメントづくりを利用者様を交えて行っていた。季節感を演出し外に出なくても季節を感じることができるように演出している。	居間・食堂室は、エアコンや加湿器により快適な温湿度が保たれ、照明も目に優しい色調に調整されており、明るく落ち着いた環境が整えられている。テレビ、食卓テーブル、ソファなどが配置され、壁面には季節を感じられる装飾が施されている。利用者が写真を眺めたりテレビを視聴したりと、思い思いにくつろいで過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご自身のお部屋で過ごす方がいれば無理にホールに来ていただくことなくご自身のペースで過ごしていただいている。また、席により苦手な方同士が隣り合わないよう席順には気を使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お部屋の中に置いておくものはご本人とご家族により使い慣れたものやお好みの物をそろえていただいている。季節に合わせて室内を模様替える方もいらっしゃる。	居室にはリクライニングベッド、クローゼット、エアコン、床暖房が備え付けられており、照明も明るさや色調を調整できるようになっている。利用者は、使い慣れたテレビやタンスなどを自由に持ち込むことができ、仏壇を設置している利用者もいるなど、個々の生活スタイルに合わせた環境づくりが可能となっている。ベッドにはナースコールや離床センサー、バイタルチェック機能が搭載されており、利用者の状態を常時把握できる体制が整っている。さらに、看取り時の対応機能も備えており、緊急時には迅速に対応できる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	導線上には物を置かない、ぐらぐらするものは固定するなど安全に配慮する様に工夫している。		